(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3848501号
(P3848501)
(45)発行日　平成18年11月22日(2006.11.22)　(24)登録日　平成18年9月1日(2006.9.1)

(51)Int.Cl.　　F I
E04D 11/00 (2006.01)　　E04D 11/00　Q
E04D 5/00 (2006.01)　　E04D 5/00　D

請求項の数 2　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願平11-220945
(22)出願日　平成11年8月4日(1999.8.4)
(65)公開番号　特開2001-40832(P2001-40832A)
(43)公開日　平成13年2月13日(2001.2.13)
審査請求日　平成16年4月9日(2004.4.9)

(73)特許権者　000198787
積水ハウス株式会社
大阪府大阪市北区大淀中１丁目１番８８号
(74)代理人　100075502
弁理士　倉内　義朗
(72)発明者　藤家　充朗
大阪府大阪市北区大淀中一丁目１番８８号
積水ハウス株式会社内

審査官　小島　寛史

最終頁に続く

(54)【発明の名称】出入隅用防水パネルユニット及び外部床の出入隅における防水施工方法

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
外部床の周囲に設けられた二面の腰壁が出入隅を挟んで連続する箇所の防水に使用される出入隅用防水パネルユニットであって、
隣接する三辺が出入隅の平面形状に沿うように形成された断熱材と、
この断熱材上に貼着された平坦部及び平坦部の前記三辺のうちの外側の二辺からそれぞれ立ち上げられた一対の立ち上がり部を有し、各立ち上がり部の上縁近傍にそれぞれビス孔が形成されてなる耐水鋼板と、
この耐水鋼板における平坦部の腰壁側の各縁部近傍から各立ち上がり部の下部にわたってそれぞれ貼着され、各立ち上がり部の上方まで延出された一対の軟質樹脂製の防水シートと、
出入隅に沿うように折曲形成された三面の直立部を有し、前記耐水鋼板の両立ち上がり部にわたって固着された補強部材と、
出入隅に沿うように一体的かつ水密的に形成された三面の立面部及び一面の底面部を有し、前記一対の防水シートの出入隅側の各縁部及び前記補強部材に被さるようにして貼着された軟質樹脂製の出入隅カバーと、
出入隅に沿うように折曲形成された三面の直立部を有し、外側二面の直立部の外側の縁部近傍にそれぞれビス孔が形成されるとともに、中央の直立部及び外側二面の直立部の中央寄りの縁部近傍が前記出入隅カバーの立面部の背面に貼着されてなる取付部材と、を備えることを特徴とする出入隅用防水パネルユニット。

【請求項２】
請求項１に記載の出入隅用防水パネルユニットを出入隅の外部床下地上に配置し、接着剤を介して断熱材を外部床下地上に固定するとともに、出入隅を形成する二面の腰壁に耐水鋼板の各立ち上がり部をそれぞれビス固定した後、取付部材を腰壁の出入隅にビス固定し、次いで防水シート及び出入隅カバーの立面部を腰壁に沿って伸展させることにより、出入隅周辺を水密的に被覆することを特徴とする外部床の出入隅における防水施工方法。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、バルコニー、屋上床、屋外廊下など、建物の外部に設けられて風雨に曝される外部床の防水構造に関し、特に、外部床の出入隅における防水構造に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来、バルコニーや屋上床などの外部床の防水には、外部床の構造材上に板材を配置して外部床下地を形成し、この外部床下地の上にならしモルタル層を設けて排水勾配を形成し、このモルタル層の上に防水シートを敷設して貼着する、という施工方法が採用されていた。
【０００３】
この場合、外部床の周囲には、通常、建物外壁やバルコニーの手摺壁等が立設され、これら建物外壁や手摺壁には外装材や開口部枠等が取り付けられる。そのため、これら建物外壁や手摺壁の下部には、外装材や開口部枠の下端まで立ち上がる腰壁が形成され、外部床の周縁はそれら腰壁に連続することとなる。したがって、前記防水シートは、外部床の周縁から上方に延出させて腰壁の上縁部まで水密的に貼着される必要があった。
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、前記従来の施工方法では、モルタル層の上に防水シートを敷設する際に専門職人が必要であり、その専門職人が外装等の取り付け作業を主とする外装工事現場に入らなければならないので、工程管理面での不便や制約が大きかった。
【０００５】
また、モルタル層に排水勾配を形成するのに正確な左官作業を要するとともに、防水シートを外部床全体に平坦にかつ隙間なく敷設する必要があるため、作業自体に相当の手間と時間がかかっていた。
【０００６】
さらに、外部床の四隅や建物外壁の突出部など、外部床を囲む腰壁が出入隅や入隅を形成する箇所においては、平面的な防水シートをそのまま延出させて腰壁に水密的に貼着するのが無理なので、防水シートを適当にカットするなどして出入隅や入隅に密着しうるコーナー役物を作成しているが、このような作業にも手間や時間がかかり、また、施工精度によっては十分な水密性が確保できないおそれもあった。
【０００７】
本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、外部床の防水作業を容易に行うことができ、特に、外部床の周囲に設けられた二面の腰壁が前後方向への段差面を挟んで連続する箇所において、この段差面の両側に形成される出隅と入隅（本明細書において、これらを一体にして「出入隅」という。）に対しての施工性や水密性を改善することのできる出入隅用防水パネルユニットと、これを利用した外部床の出入隅における防水施工方法を提供することを目的としている。
【０００８】
【課題を解決するための手段】
本発明の出入隅用防水パネルユニットは、外部床の周囲に設けられた二面の腰壁が出入隅を挟んで連続する箇所の防水に使用される出入隅用防水パネルユニットであって、隣接する三辺が出入隅の平面形状に沿うように形成された断熱材と、この断熱材上に貼着された

平坦部及び平坦部の前記三辺のうちの外側の二辺からそれぞれ立ち上げられた一対の立ち上がり部を有し、各立ち上がり部の上縁近傍にそれぞれビス孔が形成されてなる耐水鋼板と、この耐水鋼板における平坦部の腰壁側の各縁部近傍から各立ち上がり部の下部にわたってそれぞれ貼着され、各立ち上がり部の上方まで延出された一対の軟質樹脂製の防水シートと、出入隅に沿うように折曲形成された三面の直立部を有し、前記耐水鋼板の両立ち上がり部にわたって固着された補強部材と、出入隅に沿うように一体的かつ水密的に形成された三面の立面部及び一面の底面部を有し、前記一対の防水シートの出入隅側の各縁部及び前記補強部材に被さるようにして貼着された軟質樹脂製の出入隅カバーと、出入隅に沿うように折曲形成された三面の直立部を有し、外側二面の直立部の外側の縁部近傍にそれぞれビス孔が形成されるとともに、中央の直立部及び外側二面の直立部の中央寄りの縁部近傍が前記出入隅カバーの立面部の背面に貼着されてなる取付部材と、を備えることを特徴とする。

【０００９】

すなわち、本発明の出入隅用防水パネルユニットは、耐熱鋼板及び防水シートが出入隅を挟んで不連続となる箇所に、一体的かつ水密的に形成された出入隅カバーを予め貼着することによって、出入隅周辺を水密的に被覆しうるように形成されたものである。

【００１０】

そして、本発明の外部床の出入隅における防水施工方法は、この出入隅用防水パネルユニットを出入隅の外部床下地上に配置し、接着剤を介して断熱材を外部床下地上に固定するとともに、出入隅を形成する二面の腰壁に耐水鋼板の各立ち上がり部をそれぞれビス固定した後、取付部材を腰壁の出入隅にビス固定し、次いで防水シート及び出入隅カバーの立面部を腰壁に沿って伸展させることにより、出入隅周辺を水密的に被覆することを特徴とする。

【００１１】

これにより、耐水鋼板及び防水シートの出入隅側の縁部を出入隅の形状に合わせて現場で加工するような面倒な作業を要することなく、外部床の出入隅における防水作業を、一般部と同様にして簡単に行うことができる。こうして、防水作業の施工性は格段に向上し、また安定した施工精度が確保されることとなる。

【００１２】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しつつ説明する。

【００１３】

まず、外部床を囲む腰壁が出隅や入隅を形成する箇所以外の一般部における防水構造と、その施工方法について説明する

外部床の一般部における防水構造は、図１に示すように、ＡＬＣ床板等からなる外部床下地Ｐの上に貼着された断熱材１と、この断熱材１の表面に貼着された耐水鋼板２と、この耐水鋼板２の上に貼設された防水シート３と、防水シート３の上縁部に沿って取り付けられる水切り部材４とから構成される。

【００１４】

断熱材１は、発泡ポリスチレン樹脂等からなる板状体で、接着剤を介して外部床下地Ｐ上に貼着される。

【００１５】

耐水鋼板２は、鋼製薄板の表面又は表裏両面に塩化ビニル等による耐水性被膜を形成したもので、断熱材１上に重ねて貼着される平坦部２１と、平坦部２１の一方の縁部を上方に折曲して形成された立ち上がり部２２とを備え、この立ち上がり部２２が腰壁Ｑに沿ってあてがわれ、腰壁Ｑにビス止めされる。

【００１６】

防水シート３は、軟質塩化ビニル等の樹脂からなり、耐水鋼板２の平坦部２１の腰壁Ｑ側の縁部近傍から立ち上がり部２２に沿って貼着され、さらに上方に延出されて、腰壁Ｑの上縁部までを被覆する。

【００１７】
さらに、腰壁Ｑの上縁部には、外装材や開口部枠Ｒ等の下端に沿って長尺の水切り部材４が取り付けられ、防水シート３を押さえるようにして腰壁Ｑにビス止めされる。こうして、外装材や開口部枠Ｒと腰壁Ｑとの境界部分が止水される。
【００１８】
このように、外部床の表面の防水層の大部分を耐水鋼板２によって形成することにより、防水シート３の貼着に伴う作業を大幅に軽減することができる。
【００１９】
この防水構造については、断熱材１、耐水鋼板２及び防水シート３を予め工場等で所定の形状に加工・貼合して防水パネルを形成し、この防水パネルを施工現場に搬入して敷設するという手段により、施工現場での作業をさらに効率化することができる。図２及び図３に、防水パネルの実施の形態を示す。
【００２０】
防水パネルとしては、外部床を囲む腰壁Ｑの直線状部分に沿って配置される一般部用床パネル５Ａ（図２）と、一般部用床パネル５Ａの表面上を流下する雨水を集めて排水するために外部床の水下側に配置される樋パネル５Ｂ（図３）とが用意される。
【００２１】
一般部用床パネル５Ａは、平面視矩形の断熱材１に耐水鋼板２の平坦部２１を貼着し、平坦部２１の一辺に上方に立ち上がる立ち上がり部２２を形成したもので、立ち上がり部２２の上縁近傍には、この立ち上がり部２２を腰壁Ｑにビス止めするためのビス孔２２１が複数個、水平方向に間隔をあけて設けられている。また、断熱材１は、その厚さが立ち上がり部２２側から対辺側に向けて次第に薄くなるように形成され、これにより耐水鋼板２の表面に排水勾配が付与されている。耐水鋼板２の平坦部２１には、立ち上がり部２２側の縁部近傍から立ち上がり部２２にかけて防水シート３が貼着され、この防水シート３が立ち上がり部２２よりもさらに上方に延出されている。ただし、この防水シート３は、立ち上がり部２２の上縁近傍のビス孔２２１付近には接着されておらず、防水シート３の延出部分を下方にめくると立ち上がり部２２に設けられたビス孔２２１が露出して、そのままビス止め作業ができるようになっている。
【００２２】
樋パネル５Ｂは、平面形状が一般部用床パネル５Ａよりも細長く形成され、その長手方向に沿って、耐水鋼板２の平坦部２１を折曲して形成された排水溝２３が設けられている。平坦部２１及び排水溝２３の下面には断熱材１が貼着されている。耐水鋼板２の長辺側の縁部の一方には立ち上がり部２２が形成され、立ち上がり部２２の上縁近傍にはビス孔２２１が複数個、水平方向に間隔をあけて設けられている。そして、防水シート３が、その下縁部を立ち上がり部２２の下部に接着して取り付けられ、立ち上がり部２２の上方まで延出されている。また、耐水鋼板２の長辺側の縁部の他方には、垂下片部２４１と水平片部２４２とからなる断面略Ｌ字型の接合部２４が形成されている。接合部２４の水平片部２４２には、これを外部床下地Ｐにビス止めするためのビス孔２４３が複数個、間隔をあけて設けられている。
【００２３】
これら一般部用床パネル５Ａ及び樋パネル５Ｂを使用して外部床の一般部の防水作業を行う際の施工方法について、図４を参照して説明する。
【００２４】
まず、樋パネル５Ｂを、外部床下地Ｐと溝受け部材Ｓとの間に形成された凹部Ｔに排水溝２３を落とし込むようにして配置し、立ち上がり部２２を腰壁Ｑに、接合部２４の水平片部２４２を外部床下地Ｐに、それぞれビス止めする。樋パネル５Ｂの縁端部については、図示しないエンド部材によって止水する。
【００２５】
次いで、一般部用床パネル５Ａを、その水下側の縁部で樋パネル５Ｂの水平片部２４２を押さえるようにして外部床下地Ｐ上に載置し、接着剤を介して外部床下地Ｐ上に固定する

とともに、立ち上がり部２２を腰壁Ｑにビス止めする。

【００２６】

こうして、一般部用床パネル５Ａ及び樋パネル５Ｂが所定の位置に配置されたならば、それぞれに貼着された防水シート３を腰壁Ｑに沿って立ち上げ、接着剤や釘等を用いてその上縁部を腰壁Ｑに仮止めする。これによって、立ち上がり部２２を腰壁Ｑに固定するビスの頭部も被覆される。腰壁Ｑの高さは建物の種類や外壁の仕様等によって変化するが、防水シート３の延出部分を予め多少長めにしておけば、腰壁Ｑの高さに合わせて防水シート３を適宜カットすることで、確実に腰壁Ｑの上縁部までを被覆することができる。

【００２７】

隣り合う各一般部用床パネル５Ａ及び樋パネル５Ｂの間には、それぞれ若干の隙間を有する目地Ｕが形成されるので、これらの目地Ｕを粘着テープ６１及びパッチベルト６２を用いて封止する。

【００２８】

粘着テープ６１は、クラフトテープ等に代表される耐水性を備えた合成紙又は布製のテープである。目地Ｕの幅の２倍程度の幅のクラフトテープを、隣り合う一般部用床パネル５Ａ・樋パネル５Ｂにまたがるようにして目地Ｕの上に貼着する。

【００２９】

パッチベルト６２は、軟質塩化ビニル等の樹脂からなる帯状部材で、その幅は前記粘着テープ６１よりもさらに幅広に形成されている。パッチベルト６２の裏面は、粘着テープ６１の幅に相当する中央部分を除いて両側縁部に粘着面が形成されている。このパッチベルト６２を、中央部分の非粘着面が前記粘着テープ６１に重なるようにして、両側縁部の粘着面を隣り合う一般部用床パネル５Ａ・樋パネル５Ｂの表面に貼着する。

【００３０】

粘着テープ６１及びパッチベルト６２は、耐水鋼板２の表面から、腰壁Ｑに沿って仮止めされた防水シート３の上部まで連続するように貼着する。これにより、各一般部用床パネル５Ａ・樋パネル５Ｂの間の目地Ｕが水密的に封止されるとともに、各一般部用床パネル５Ａ・樋パネル５Ｂが相互に水平移動した場合でも、目地Ｕの間隔の変位を吸収できることとなる。

【００３１】

外部床の表面から腰壁Ｑの上縁部までが、耐水鋼板２、防水シート３及びパッチベルト６２によって水密的に被覆されたならば、腰壁Ｑの上縁部に沿って図１に示した水切り部材４を取り付け、防水シート３の上縁部を押さえるようにして腰壁Ｑにビス止めする。最後に、水切り部材４の上縁部と外装材や開口部枠Ｒの下端との間にシーリング４１を施す。こうして、外装材や開口部枠Ｒと腰壁Ｑとの境界部分も止水される。

【００３２】

このように、断熱材１、耐水鋼板２及び防水シート３を予め所定の形状に加工・貼合して形成した防水パネル（一般部用床パネル５Ａ、樋パネル５Ｂ）を外部床に載置・固定することにより、施工現場における面倒な左官作業や防水シート３の貼着作業が不要になり、外部床の防水作業を効率的に、かつ精度よく行なうことができる。防水シート３は湾曲容易な軟質樹脂からなるので、これを予め耐水鋼板２に貼着しておいたとしても、運搬や保管等の面での支障を小さくすることができる。

【００３３】

本発明は、図５に示すように、外部床を囲む二面の腰壁Ｑ（Ｑ１，Ｑ２）が段差面ｑを挟んで連続する箇所において、この段差面ｑによって形成された出入隅に、前記一般部に連続する防水構造を効率的に、かつ精度よく施工するためのものである。以下、その実施の形態について、図５乃至図８を参照して説明する。

【００３４】

外部床の出入隅における防水構造は、出入隅の形状に合わせて用意された防水パネルである出入隅用床パネル５Ｃ（図７）と、この出入隅用床パネル５Ｃを補強するための補強部材７と、この補強部材７に重ねて貼着された出入隅用防水役物８と、からなる出入隅用防

水パネルユニット５０Ｃ（図８）を使用して構成されている。

【００３５】

出入隅用床パネル５Ｃは、一般部に配置される前記一般部用床パネル５Ａと同様に、断熱材１と、断熱材１の表面に貼着された耐水鋼板２と、耐水鋼板２の表面に貼着された防水シート３とからなり、出入隅に沿うようにして外部床下地Ｐ上に固定されている。断熱材１、耐水鋼板２及び防水シート３の素材については前記と同様である。

【００３６】

断熱材１は、その三辺が出入隅の段差面ｑとその両側に連続する二面の腰壁Ｑ１，Ｑ２とに合致するような平面形状を有し、出入隅側から対角方向或いはいずれかの対辺方向に向けて適当な排水勾配が付与されている。この断熱材１は、接着剤を介して外部床下地Ｐ上に接着されている。

【００３７】

耐水鋼板２は、断熱材１上に貼着された平坦部２１と、平坦部２１の腰壁Ｑ１，Ｑ２側の二辺からそれぞれ上方に立ち上げられた一対の立ち上がり部２２とを備えている。これら各立ち上がり部２２は、出入隅の稜角部及び隅角部に面する縁部を斜めに切り込んだ平板状の耐水鋼板２を折曲して形成されるため、段差面ｑに面する部分が不連続となる。各立ち上がり部２２の上縁近傍には、ビス孔２２１が複数個、水平方向に間隔をあけて設けられ、このビス孔２２１を利用して、各立ち上がり部２２が腰壁Ｑ１，Ｑ２にそれぞれビス止めされている。

【００３８】

防水シート３は、耐水鋼板２の平坦部２１の腰壁Ｑ１，Ｑ２側の縁部近傍から各立ち上がり部２２に沿ってそれぞれ貼着され、各立ち上がり部２２の上縁よりも上方まで延出している。したがって、これら各防水シート３も、出入隅に面する部分が不連続となる。各防水シート３は、その下縁部が予め耐水鋼板２の平坦部２１と各立ち上がり部２２の下部にのみ接着されており、上部をめくって立ち上がり部２２を腰壁Ｑ１，Ｑ２にビス止めすることができるようになっている。各防水シート３は、腰壁Ｑ１，Ｑ２の高さに合わせてカットされ、上方に伸展されて、立ち上がり部２２及びこれを腰壁Ｑ１，Ｑ２にビス止めしているビスの頭部を被覆している。

【００３９】

補強部材７は、耐水鋼板２と同様の樹脂被膜鋼板を折曲して形成された部材で、出入隅に沿うように折曲されて連続する三面の直立部７１と、各直立部７１の下縁から水平に張り出す水平部７２とを備えている。この補強部材７は、外側二面の直立部７１が出入隅用床パネル５Ｃの耐水鋼板２の両立ち上がり部２２にわたるようにして溶接されている。これによって、互いに不連続に形成された左右の立ち上がり部２２が出入隅に沿って構造的に連結され、各立ち上がり部２２の直立状態が安定的に保持されるとともに、出入隅周辺に応力が集中した場合に耐水鋼板２が変形・損傷するのを防止することができる。

【００４０】

なお、この補強部材７は、少なくとも出入隅に沿って左右の立ち上がり部２２を連結しうる三面の直立部７１を有するものであればよく、水平部７２の有無やその形状は特に問わない。

【００４１】

出入隅用防水役物８は、軟質塩化ビニル等の樹脂を射出成型するなどして予め一体的かつ立体的に形成された出入隅カバー８１と、その背面に取り付けられた樹脂被膜鋼板製の取付部材８２とからなる。

【００４２】

出入隅カバー８１は、出入隅に沿うように形成された三面の立面部８１１と、それらの下縁に一体的に連続する底面部８１２とを備え、各立面部８１１と底面部８１２とは互いに隙間なく水密的に形成されている。これら立面部８１１及び底面部８１２は、前記補強部材７を被覆し、かつ、外側の両縁部の幅が出入隅用床パネル５Ｃの左右の防水シート３にまたがる大きさに形成されている。また、立面部８１１の高さは、出入隅用床パネル５Ｃ

の防水シート３の延出高さと同程度に形成されている。

【００４３】

取付部材８２は、出入隅に沿うように折曲されて連続する三面の直立部８２１を有し、外側二面の直立部８２１の外側の縁部近傍にはビス孔８２２がそれぞれ設けられている。この取付部材８２は、中央の直立部８１１と、外側二面の直立部８２１の中央寄りの縁部近傍が、出入隅カバー８１の立面部８１１の背面に予め接着されており、出入隅カバー８１の外側二面の立面部８１１の縁部を手前にめくって取付部材８２を腰壁Ｑ１，Ｑ２にビス止めすることができるようになっている。この取付部材８２を、出入隅を挟む二面の腰壁Ｑ１，Ｑ２にビス止することにより、出入隅カバー８１が出入隅に引き付けられる。そして、出入隅カバー８１の外側二面の立面部８１１が伸展されると、取付部材８２は出入隅カバー８１の背後に被覆される。外側二面の立面部８１１の外側の縁部は、出入隅の両側にそれぞれ伸展された各防水シート３の出入隅側の縁部にそれぞれ被せられ、接着剤を介して各防水シート３及び耐水鋼板２に接着されている。

【００４４】

このように、耐熱鋼板２とその表面に貼着した防水シート３とが出入隅を挟んで不連続となる箇所に、一体的かつ水密的に形成された出入隅カバー８１が貼着されることにより、隙間のない防水面が一体に形成されて出入隅周辺が水密的に被覆される。この出入隅カバー８１は、その背面に貼着された取付部材８２を介して腰壁Ｑ１，Ｑ２にビス止めされるとともに、背面の縁部に塗布された接着剤を介して防水シート３の上に接着されるので、出入隅に沿って確実に保持され、その取り付けも容易である。また、耐水鋼板２の両立ち上がり部２２を連結する補強部材７や出入隅カバー８１の背面に貼着された取付部材８２によって、出入隅周辺の各部材の取り付け状態も強化される。

【００４５】

本発明の出入隅用防水パネルユニット５０Ｃは、出入隅用床パネル５Ｃと補強部材７と出入隅用防水役物８とを予め工場等で一体に形成した部材である。補強部材７は、耐水鋼板２の左右の立ち上がり部２２にわたって溶接されている。また、出入隅用防水役物８は、出入隅カバー８１の背面に塗布した接着剤を介して、耐水鋼板２の平坦部２１及び防水シート３の出入隅側の縁部に重ねて接着されている。

【００４６】

そして、予め一体に形成した出入隅用防水パネルユニット５０Ｃを現場に搬入して外部床の出入隅に設置するという施工方法により、施工現場における各部材相互の取付・貼着作業を軽減して、施工性を高めることができる。この場合でも、防水シート３や出入隅カバー８１は軟質樹脂製であるため、これらを適当に折り畳むことができる。したがって、立体的な形状を有する出入隅カバー８１の背面に取付部材８２が貼着されていても、運搬や保管等の面での支障を小さくすることができる。

【００４７】

かかる出入隅用防水パネルユニット５０Ｃを使用した防水施工方法については以下の通りである。

【００４８】

まず、出入隅用防水パネルユニット５０Ｃを出入隅に沿って外部床下地Ｐ上に載置する。接着剤を介して断熱材１を外部床下地Ｐに接着するとともに、耐水鋼板２の表面に貼着された防水シート３を手前にめくって、出入隅を形成する二面の腰壁Ｑ１，Ｑ２に耐水鋼板２の各立ち上がり部２２をそれぞれビス止めする。

【００４９】

次いで、出入隅用防水役物８を出入隅の稜角部及び隅角部にあてがい、出入隅カバー８１の外側二面の立面部８１１の縁部を手前にめくって、取付部材８２を腰壁Ｑ１，Ｑ２にビス止めする。

【００５０】

そして、防水シート３及び出入隅カバー８１の外側二面の立面部８１１を腰壁Ｑ１，Ｑ２に沿って立ち上げ、それらの上縁部を腰壁Ｑ１，Ｑ２の高さに揃えてカットした後、接着

剤や釘等を用いて各腰壁Ｑ１，Ｑ２に仮止めする。

【００５１】

出入隅用防水パネルユニット５０Ｃと前記一般部に配置される一般部用床パネル５Ａや樋パネル５Ｂとが隣接する部分については、その目地Ｕを、前述のように、粘着テープ６１及びパッチベルト６２を用いて封止する。

【００５２】

最後に、腰壁Ｑ１，Ｑ２及び段差面ｑの上縁部に沿って水切り部材４を取り付け、一般部と連続するようにして固定し、シーリング４１を施す。この際、出入隅の形状に合わせて屈曲させた出入隅用水切り部材（図示せず）を別途用意して取り付けてもよい。

【００５３】

【発明の効果】

以上に述べたように、出入隅における耐熱鋼板及び防水シートの不連続箇所に一体的かつ水密的に形成された出入隅カバーが予め貼着されてなる出入隅用防水パネルユニットを使用することにより、耐水鋼板や防水シートの出入隅側の縁部を出入隅の形状に合わせて現場で加工するような面倒な作業を要することなく、外部床の出入隅における防水作業を、一般部と同様にして簡単に行うことができる。こうして、防水作業の施工性は格段に向上し、また安定した施工精度が確保されることとなる。

【図面の簡単な説明】

【図１】外部床の一般部における防水構造の実施の形態を示す縦断面図である。

【図２】前記一般部の防水構造に用いられる一般部用床パネルの構成を示す斜視図である。

【図３】前記一般部の防水構造に用いられる樋パネルの構成を示す斜視図である。

【図４】前記一般部用床パネル及び樋パネルを使用して一般部の防水作業を行う際の施工状態を示す斜視図である。

【図５】外部床の出入隅における防水構造の実施の形態を示す分解斜視図である。

【図６】図５の防水構造の、腰壁の稜角部近傍又は隅角部近傍における縦断面図である。

【図７】図５の防水構造に用いられる出入隅用床パネルの構成を示す斜視図である。

【図８】本発明の出入隅用防水パネルユニットの実施の形態を示す斜視図である。

【符号の説明】

Ｐ　外部床下地

Ｑ（Ｑ１，Ｑ２）　腰壁

１　断熱材

２　耐水鋼板

２１　平坦部

２２　立ち上がり部

２２１　立ち上がり部のビス孔

３　防水シート

５０Ｃ　出入隅用防水パネルユニット

７　補強部材

７１　直立部

８１　出入隅カバー

８１１　立面部

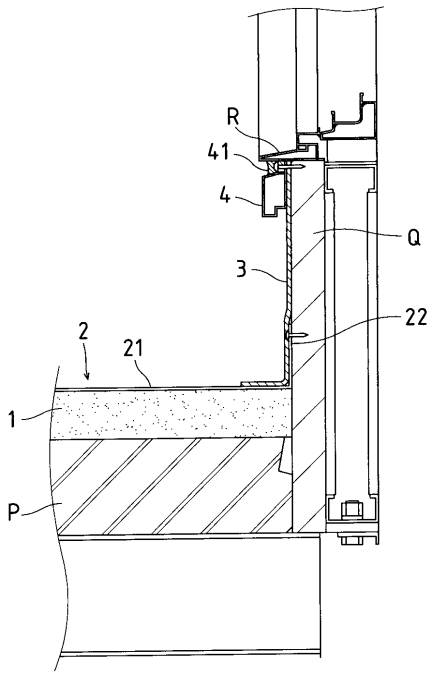
８１２　底面部

８２　取付部材

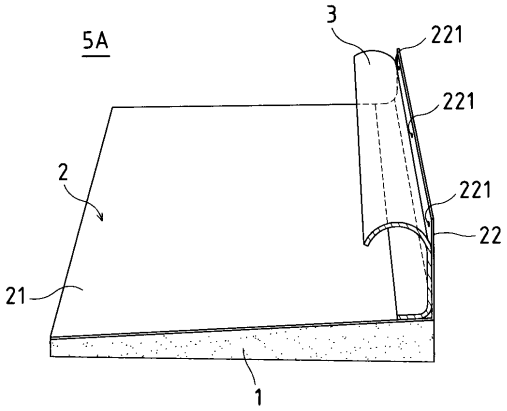
８２１　取付部材の直立部

８２２　取付部材のビス孔

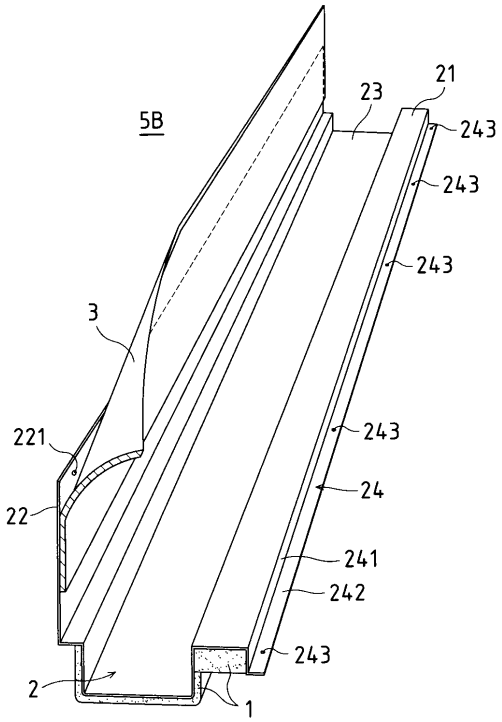
【図１】


R
41
4
Q
3
22
2
21
1
P

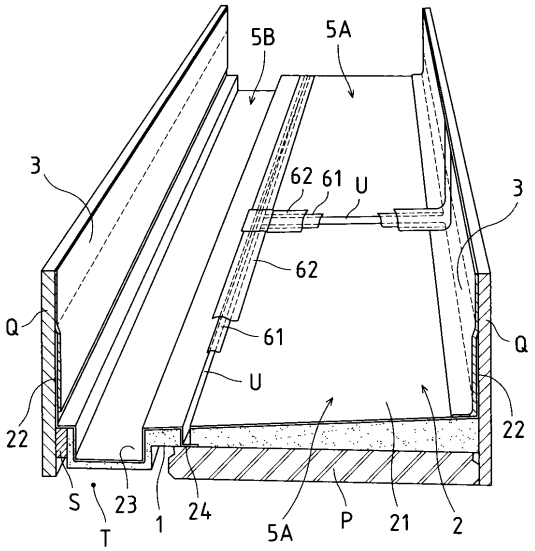
【図２】


5A
3
221
221
221
22
2
21
1

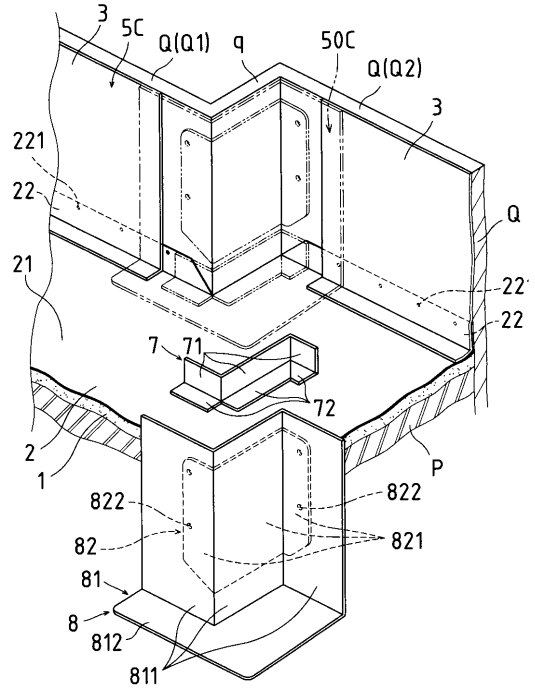
【図３】


5B
23
21
243
243
243
3
221
22
243
24
241
242
243
2
1

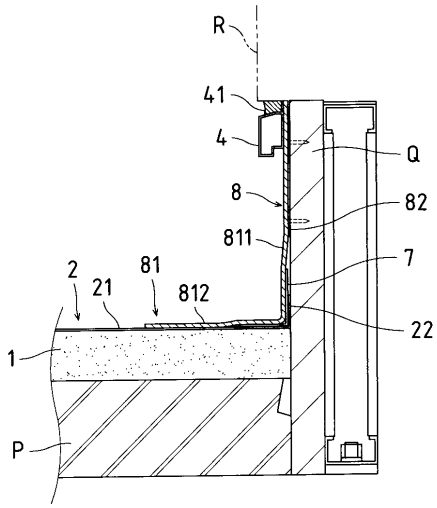
【図４】


5B
5A
3
62
61
U
3
62
Q
61
Q
U
22
22
S
T
23
1
24
5A
P
21
2

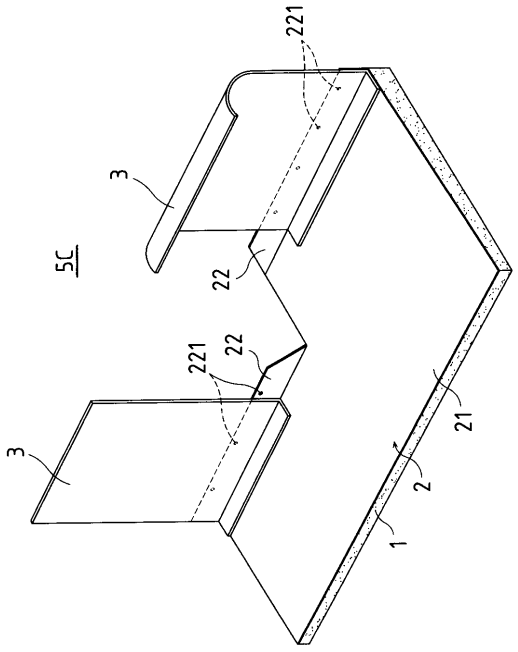
【図５】


3
5C
Q(Q1)
q
50C
Q(Q2)
3
221
22
Q
21
22
22
7
71
72
2
1
P
822
822
82
821
81
8
812
811

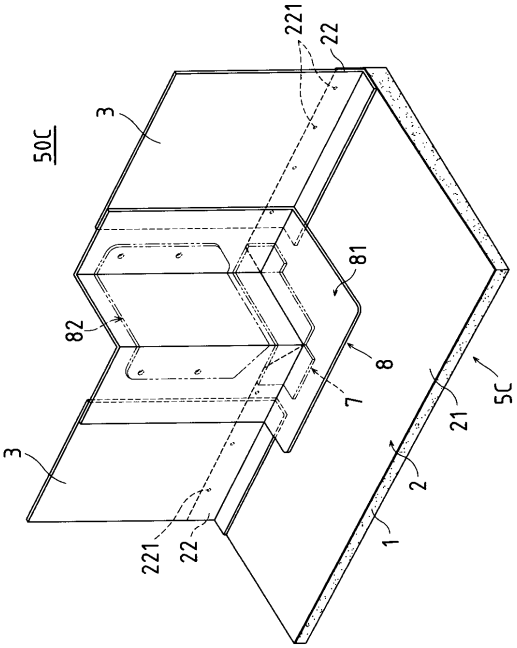
【図６】


R
41
4
Q
8
82
811
7
2
21
81
812
22
1
P

【図７】


221
3
5C
22
221
22
3
21
2
1

【図８】


221
22
3
50C
81
82
8
7
21
5C
3
2
1
221
22

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０６－３３０５９６（ＪＰ，Ａ）
特開平１１－２２２９２３（ＪＰ，Ａ）
実開平０１－１５３０２８（ＪＰ，Ｕ）
実開平０３－０２８２３１（ＪＰ，Ｕ）
特開昭４８－０１４１２７（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
E04D 5/00-12/00
E04D 3/00
E04D 13/14
E04F 13/08 101
E04F 19/02
E04B 1/00 501